



公益財団法人 日本バスケットボール協会

会長 三屋 裕子

- **傘下団体を強かに統括するリーダーシップを有する組織**
- **スピーディーな意思決定を可能とする組織**
- **国内統一プロリーグとの緊密かつ強固な連携**
- **FIBA「National Federation manual」に準拠した組織**
- **都道府県協会のガバナンス強化および法人化**

- FIBA「National Federation manual」（NFマニュアル）に則り、
 - ・ バスケットボール界における基本主体である地区／地域の協会をメンバーに加える
 - ・ 効率よく迅速に物事を進めるため、メンバー数をあまり多くしない
 - よりスピーディーな意思決定を図るため、エグゼクティブコミッティーに相当する「幹部会（仮称）」を理事会コアメンバーで別途構成する
 - ・ 理事会のメンバーは、原則として現役でバスケットボールの利益となるような活動・プロジェクトに取り組んでいることを要件とする
- 「プロリーグとの緊密かつ強固な連携」を具現化するため、プロリーグ代表者をメンバーに加える

●基本方針

**「バスケットボールで日本を元気にする」
ための改革を強力に推進**

●重点事業

【日本代表の強化（育成）】

- ・ 2019年ワールドカップ予選（ホーム&アウェイ方式）へ向けた適応・強化策の実施
- ・ 2020年東京オリンピックへ向けた強化策の実施
- ・ 長期的視野に基づいた年代別育成方針／システムの確立

【事業の拡大】

- ・ 日本代表戦／各種大会の再設計および価値向上策の推進
- ・ 日本代表のブランディング強化とバスケットボール界のVI戦略の策定
- ・ B.LEAGUEとの協働による総合的マーケティング基盤の整備

【組織の強化】

- ・ JBA、都道府県協会、各種連盟のガバナンス体制強化とサポート施策の実施
- ・ 2018年度以降の新登録制度体系への着実な移行に向けた諸準備の展開
- ・ JBA事務局機能の充実

●今期（H28/29年度）の基本事業方針

**「バスケットボールで日本を元気にする」
ための改革を強力に推進する**

●今期（H28/29年度）の重点事業

【日本代表の強化（育成）】

- ・ 2016年リオオリンピックへ向けた支援体制の強化
- ・ 2017年ワールドカップ予選（H&A方式）へ向けた適応・強化策の実施
- ・ 2020年東京オリンピックへ向けた強化策の実施
- ・ 長期的視野に基づいた年代別育成方針／システムの確立

【事業の拡大】

- ・ 日本代表戦／各種大会の再設計および価値向上策の推進
- ・ 日本代表のブランディング強化とバスケットボール界のVI（ビジュアル・アイデンティティ）戦略の策定
- ・ B.LEAGUEとの協働による総合的マーケティング基盤の整備

【組織の強化】

- ・ JBA、PBA（都道府県協会）、各種連盟のガバナンス体制強化とサポート施策の実施
- ・ 2018年度以降の新登録制度体系への着実な移行に向けた諸準備の展開
- ・ JBA事務局機能の充実（組織運営面、財政面、人材育成面）



これらを網羅した「JAPAN BASKETBALL STANDARD 2016（JBS2016）」の実施推進

1. 2015年8月 F I B A制裁解除の条件として示された主要改善項目

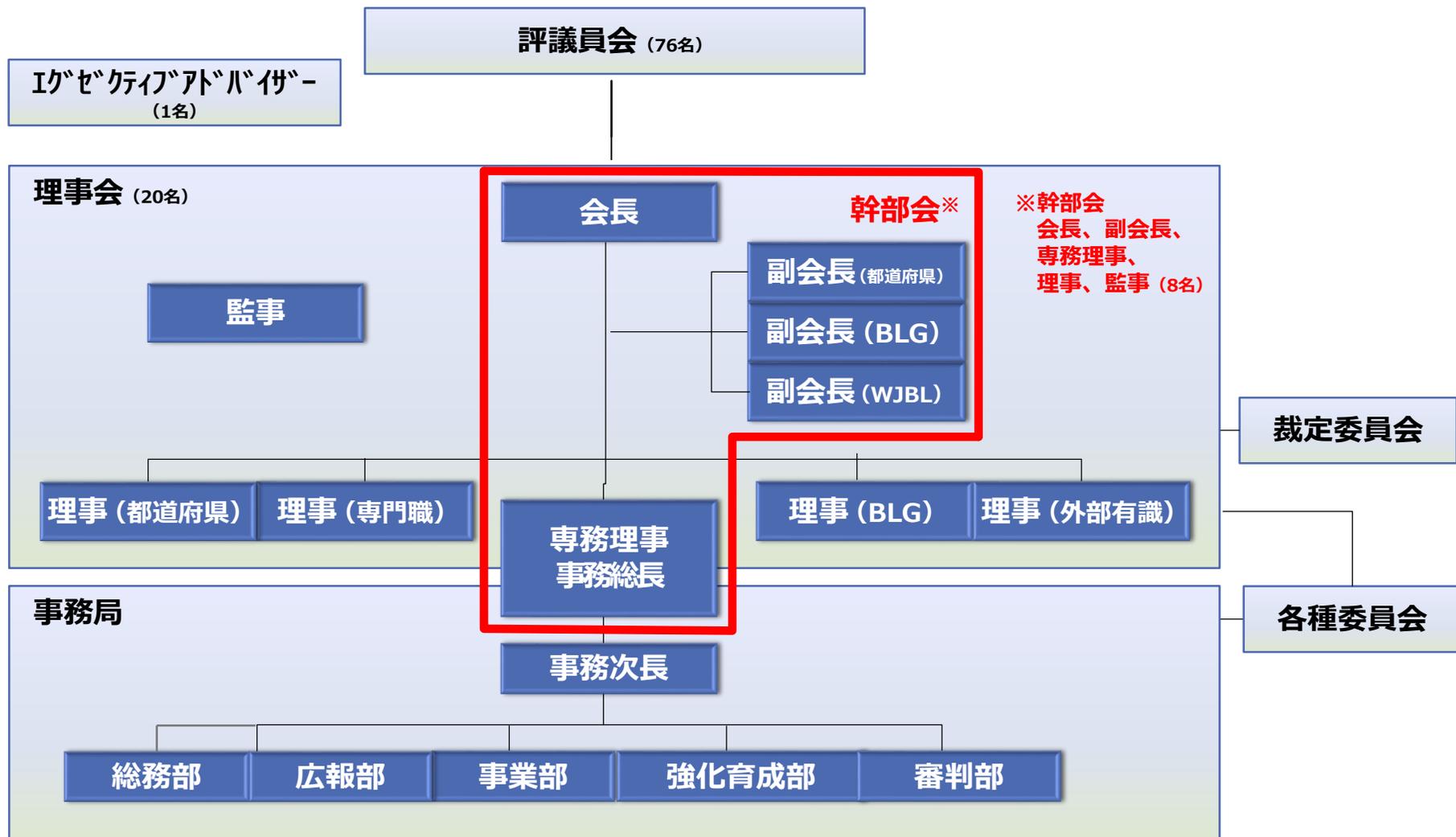
- (1) 国内バスケットボール競技界のガバナンス強化
- (2) 男子リーグ（N B L、b jリーグ）の統一
- (3) 代表チームの強化

2. 進捗状況

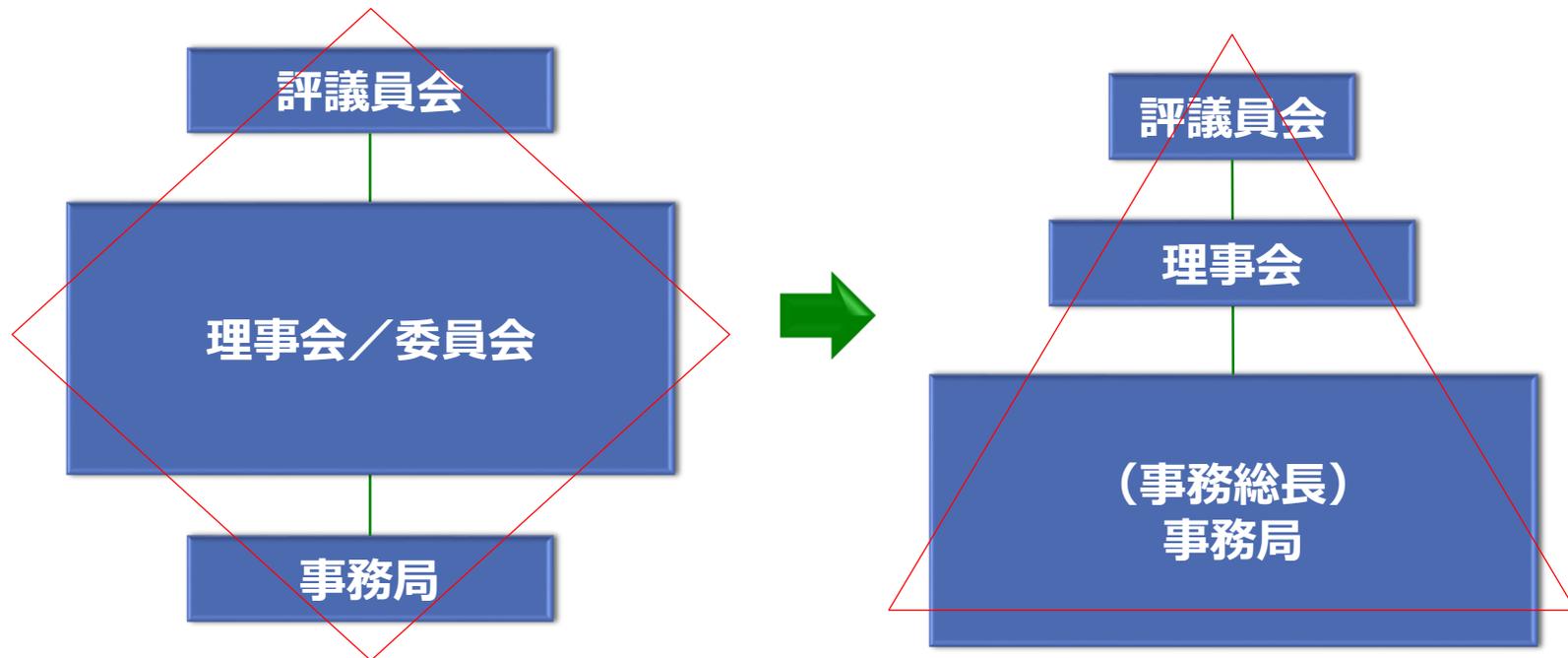
- (1) 国内バスケットボール競技界のガバナンス強化
 - ①組織体制の見直し } P4
 - ②役員体制の見直し }
 - ③各種連盟の改編 → P5~6
 - ④都道府県バスケットボール協会（PBA）の法人化
→47都道府県で完了
 - ⑤財務基盤の確立
→事業規模（平成27年度：14億円〈実績〉）
（平成28年度：23億円〈実績〉）
（平成29年度：34億円〈予算〉）

ガバナンスの強化：①組織体制の見直し、②役員体制の見直し

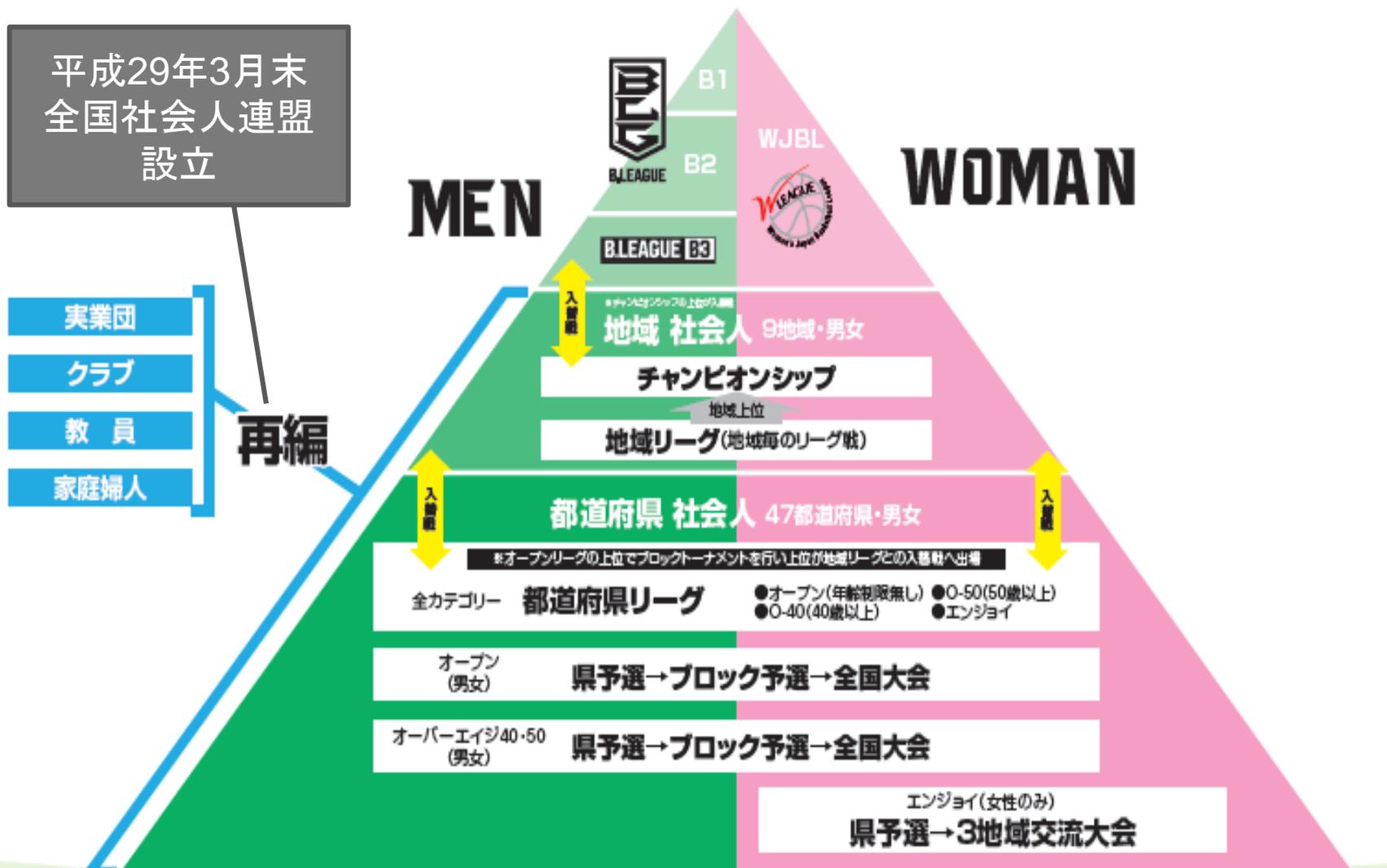
理事会を方針決定機関とし、別途実務レベルの意思決定権限を与えた事務総長とその管理機関（幹部会）を置き、スピーディーな意思決定を図る体制としました。



- 事務総長下の事務局が業務執行の主体となる
- 各機関の権限と業務執行量のイメージ



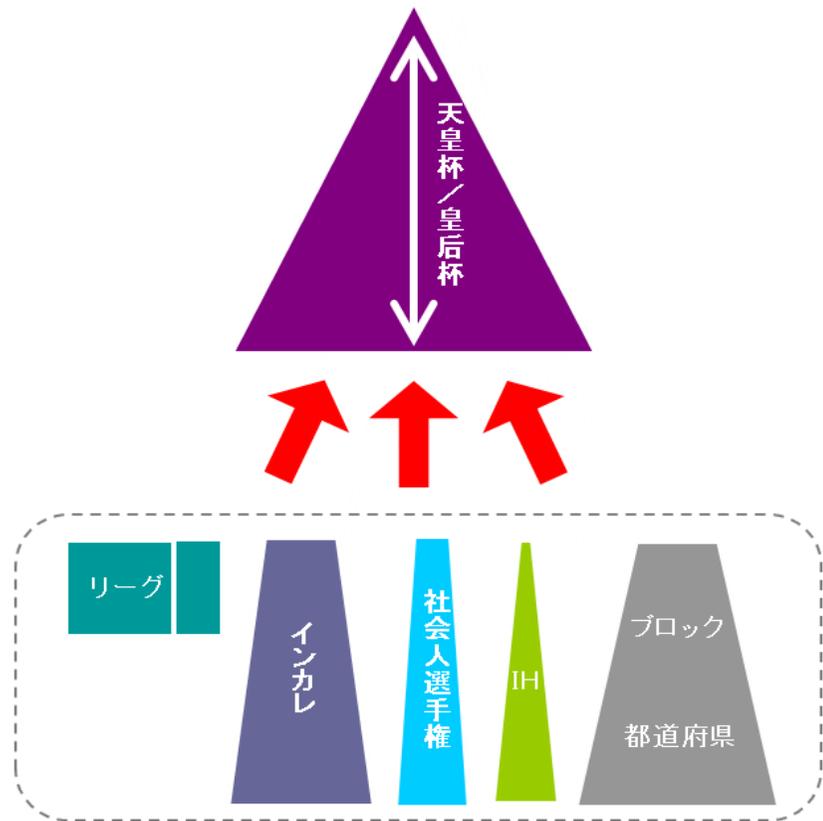
社会人各カテゴリーのリーグで入替戦を行いながら、Bリーグ/WJBLを頂点とする大会を運営するとともに、生涯スポーツとしてエンジョイできる環境を提供していきます。



真の日本一決定戦として、出場機会の不均等の是正や大会意義を高めるため、
「予選大会から本大会までの一本化」

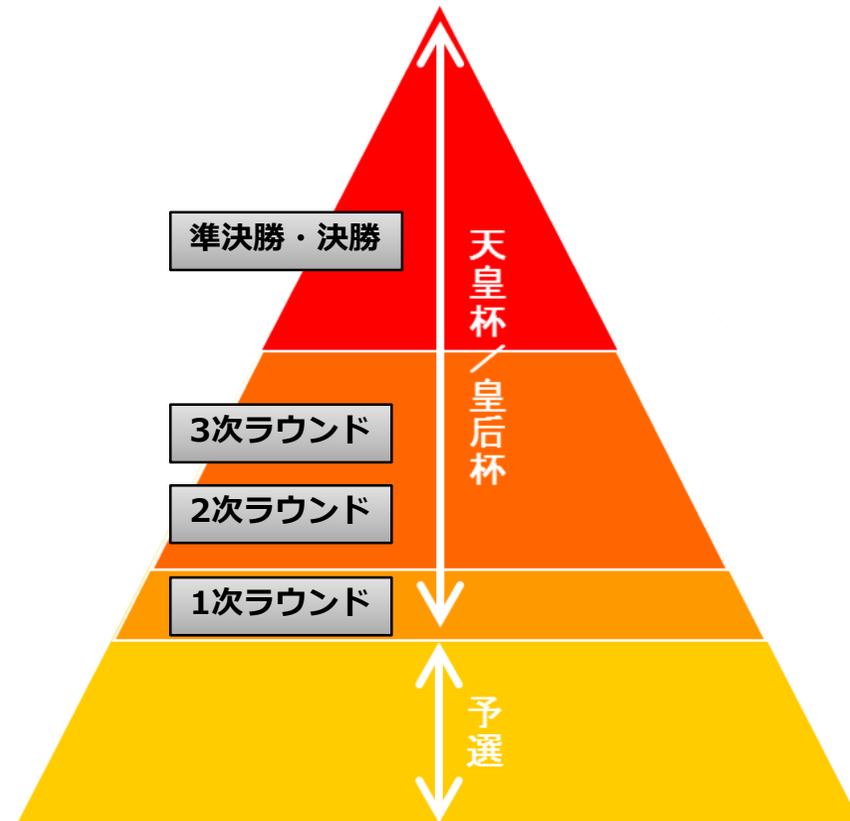
出場チーム決定方法

旧方式



地域(47都道府県)、連盟大会の入り混じった予選

新方式



地域(47都道府県)予選からの一本化(出場権は1回)

1. 中長期ビジョン(JAPAN BASKETBALL STANDARD2016)の策定・展開

- ①スローガン：Break The Border ～超えて未来へ～
- ②ビジョン：強く 広く 社会のために
- ③内容：5つの視点から、15のミッション、45のアクションプラン
- ④具体的目標：オリンピックでのメダル獲得
 バスケットボール産業規模500億円
 バスケットボールファミリー200万人 等

2. 2023年 FIBAワールドカップ 開催地への立候補(@沖縄市)

- ①開催時期：2023年8月末～9月(予定)
- ②出場国数：32か国
- ③立候補国：4か国
 - 【1】単独：ロシア、トルコ
(予選ラウンドおよび決勝トーナメントを1か国で開催)
 - 【2】複数：日本・フィリピン・インドネシア、アルゼンチン・ウルグアイ
(予選を4か国で行い、うちの1か国で決勝トーナメントを開催)
- ④決定までのスケジュール
 - 2017年4月～6月 各立候補国でFIBAとワークショップ開催 (6/29-30完了)
 - 2017年8月 30日 立候補ファイル提出期限
 - 2017年9月～10月 FIBA評価委員会が各国を訪問 (最終招致プレゼン含む)
 - 2017年11月22日 署名済みの開催国同意書および保証書の提出期限
 - 2017年12月9日 FIBAセントラルボードによる開催国の決定および発表

ご清聴、ありがとうございました。

